

名古屋の学校（「学校調査」）

I 在学者総数は320,439人

平成22年5月1日現在の市内の学校総数は800校（幼稚園188園（前年度比2園減）、小学校265校（同1校減）、中学校124校、高等学校63校、特別支援学校9校、専修学校117校（同1校減）、各種学校34校（同2校減）で、前年度調査より6校減少している。 [付表1-1]

学校総数が最大であったのは昭和57、58、60、61年度調査の884校で、これに比べると84校減少している。中でも各種学校は著しく減少しており、平成12年度以降の10年間で23校減少している。 [時系列表]

在学者総数は320,439人で、前年度の320,147人と比較して292人（0.1%）増加している。学校別では、幼稚園が31,222人で前年度より170人、小学校が116,889人で同1,581人、中学校が60,912人で前年度より312人それぞれ減少している。一方、高等学校が66,542人で同990人、特別支援学校が1,640人で同59人、専修学校が34,201人で同1,287人、各種学校が9,033人で同19人それぞれ増加している。

[付表1-1]

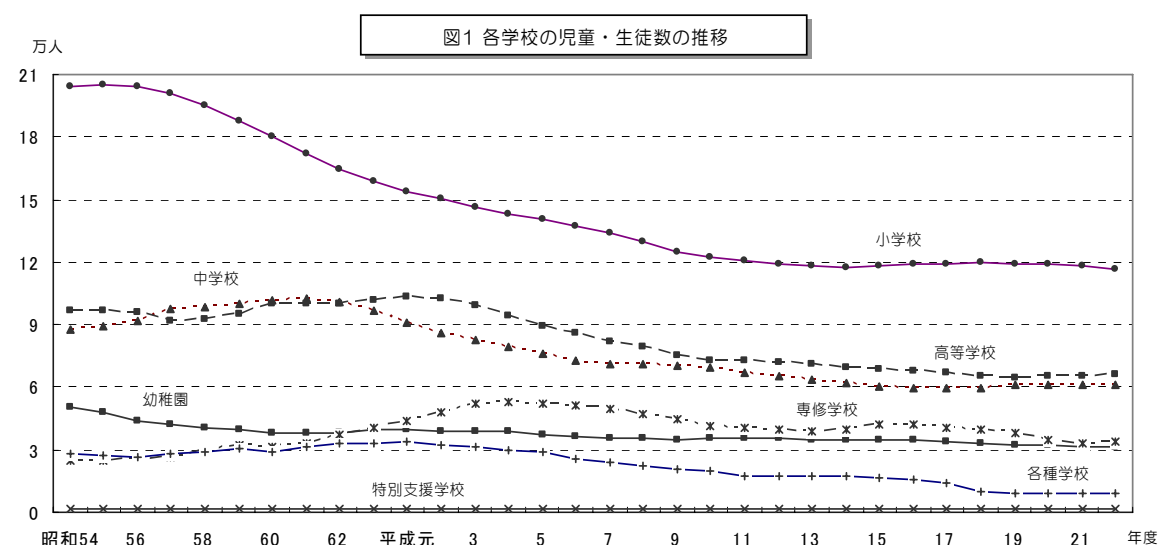
在学者総数が最大であったのは、昭和54年度の493,272人で、第2次ベビーブーム（昭和46～49年）世代が小学校を卒業する昭和60年代からは、毎年度減少し続けており、本年度はピーク時の65.0%の規模となっている。 [付表1-1、図1、時系列表]

付表1-1 学校数・在学者数の推移

学 校 種 別	昭和 54年度	60年度	平成 12年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	各年5月1日	
										平成21～ 22年度 増減率	昭和54～ 平成22年度 増減率
	学 校 数									(%)	(%)
総 数	876	884	837	820	814	810	806	806	800	-0.7	-8.7
幼 稚 園	222	218	200	197	195	195	192	190	188	-1.1	-15.3
小 学 校	242	253	263	262	262	263	265	266	265	-0.4	9.5
中 学 校	107	119	122	124	124	124	124	124	124	-	15.9
高 等 学 校	68	68	64	63	63	63	63	63	63	-	-7.4
特 別 支 援 学 校	6	9	9	9	9	9	9	9	9	-	50.0
専 修 学 校	77	101	122	120	118	116	116	118	117	-0.8	51.9
各 種 学 校	154	116	57	45	43	40	37	36	34	-5.6	-77.9
	在 学 者 数 (人)										
総 数	493,272	482,243	349,773	335,229	328,678	325,613	322,635	320,147	320,439	0.1	-35.0
幼 稚 園	50,277	38,351	35,143	33,691	32,908	32,382	32,043	31,392	31,222	-0.5	-37.9
小 学 校	204,163	180,153	118,839	119,324	119,665	119,188	119,297	118,470	116,889	-1.3	-42.7
中 学 校	87,870	101,788	65,238	59,631	59,828	60,923	60,808	61,224	60,912	-0.5	-30.7
高 等 学 校	96,556	99,751	72,047	66,617	65,475	64,689	65,238	65,552	66,542	1.5	-31.1
特 別 支 援 学 校	1,639	1,545	1,351	1,371	1,411	1,501	1,536	1,581	1,640	3.7	0.1
専 修 学 校	24,467	31,325	39,855	40,645	39,762	37,703	34,860	32,914	34,201	3.9	39.8
各 種 学 校	28,300	29,330	17,300	13,950	9,629	9,227	8,853	9,014	9,033	0.2	-68.1

教員１人当たりの児童・生徒数は、専修学校と各種学校で増加し、小学校では減少している。〔付表１-２〕

教員数は小学校、高等学校で増加となったが、幼稚園、中学校、専修学校、各種学校では減少となった。一方、職員数は中学校を除き減少している。〔付表１-３〕



付表１-２ １学級当たり、教員１人当たりの児童・生徒数

各年５月１日

年度	１学級当たりの児童・生徒数（人）			教員１人当たりの児童・生徒数（人）					
	幼稚園	小学校	中学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	専修学校	各種学校
昭和54年	32.6	38.3	41.1	22.4	29.6	23.0	17.8	8.0	16.6
60年	28.9	37.0	41.1	19.5	27.7	23.0	17.4	7.7	23.8
平成12年	26.1	30.5	34.8	17.5	21.0	17.0	13.4	6.9	23.4
16年	25.5	29.2	34.2	16.2	19.9	15.0	12.4	7.4	22.2
17年	25.4	29.0	33.9	15.7	19.8	14.8	12.1	6.9	19.7
18年	25.2	28.2	34.0	15.3	19.6	14.7	11.8	6.6	13.6
19年	25.0	27.8	33.9	15.0	19.3	14.8	11.8	6.2	13.4
20年	24.9	27.8	33.8	14.9	18.9	14.6	11.8	5.8	13.3
21年	24.5	27.6	32.6	14.6	18.7	14.2	11.7	5.7	13.5
22年	24.7	27.5	32.5	14.6	18.4	14.2	11.7	6.0	14.0

付表１-３ 教員総数、職員数の推移

各年５月１日

年度	教員総数（本務・兼務）（人）						職員数（人）					
	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	専修学校	各種学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	専修学校	各種学校
昭和54年	2,242	6,900	3,822	5,422	3,076	1,708	460	1,759	401	1,010	471	435
60年	1,963	6,500	4,432	5,723	4,048	1,234	374	1,813	426	955	581	432
平成12年	2,003	5,655	3,847	5,376	5,778	738	316	1,763	420	732	636	306
16年	2,123	5,968	3,972	5,466	5,746	704	309	1,758	402	707	712	271
17年	2,149	6,038	4,030	5,501	5,871	707	300	1,760	398	705	678	315
18年	2,144	6,112	4,060	5,535	5,998	706	299	1,851	412	695	696	258
19年	2,156	6,165	4,120	5,502	6,065	688	294	1,847	416	697	679	253
20年	2,152	6,309	4,170	5,515	6,000	668	300	1,849	421	672	645	252
21年	2,157	6,348	4,312	5,592	5,787	670	295	1,850	416	660	619	252
22年	2,133	6,354	4,297	5,681	5,665	645	292	1,832	418	642	609	214

Ⅱ 幼稚園 — 園児数は8年連続減少

幼稚園数は、前年度から公立と私立がそれぞれ1園ずつ減って188園（国立1園、公立24園、私立163園）となった。園児数は31,222人で前年度比170人（0.5%）減となり、平成14年度から8年連続で減少となっている。 [第1表、時系列表]

学級数は1,265学級で前年度より16学級減少し、教員数は2,133人と24人減少した。 [第1表]

年齢別の園児数は、3歳児が10,149人（前年度比192人増）、4歳児が10,457人（同223人減）、5歳児が10,616人（同139人減）、構成比は、3歳児が32.5%、4歳児が33.5%、5歳児が34.0%となっている。 [付表2、第1表]

参考として、公立・民間の保育園児数（3歳～5歳）は前年度と比べて91人増加しており、幼稚園児数と保育園児数との合計では79人減少している。 [付表2]

付表2 幼稚園の年齢別園児数及び保育園児数

各年5月1日

年 度	総 数 (人)	3 歳 (人)	4 歳 (人)	5 歳 (人)	総数に占める割合 (%)			(参 考)	
					3 歳	4 歳	5 歳	保育園児数(人) (3～5歳計)	幼稚園児数+ 保育園児数(人)
平成12年	35,143	10,824	11,851	12,468	30.8	33.7	35.5	20,185	55,328
13年	34,595	10,823	12,027	11,745	31.3	34.8	33.9	20,296	54,891
14年	34,921	11,029	11,989	11,903	31.6	34.3	34.1	20,975	55,896
15年	34,710	10,769	12,021	11,920	31.0	34.6	34.3	21,248	55,958
16年	34,322	10,688	11,702	11,932	31.1	34.1	34.8	21,557	55,879
17年	33,691	10,434	11,588	11,669	31.0	34.4	34.6	21,474	55,165
18年	32,908	10,248	11,158	11,502	31.1	33.9	35.0	21,464	54,372
19年	32,382	10,213	11,007	11,162	31.5	34.0	34.5	21,311	53,693
20年	32,043	10,186	10,863	10,994	31.8	33.9	34.3	21,260	53,303
21年	31,392	9,957	10,680	10,755	31.7	34.0	34.3	21,069	52,461
22年	31,222	10,149	10,457	10,616	32.5	33.5	34.0	21,160	52,382

注) 幼児の年齢は平成22年4月1日現在の満年齢による。

保育園児数は子ども青少年局子育て家庭部保育園企画室の資料から作成。

Ⅲ 小学校 — 児童数は前年度より1,581人減少 長期欠席児童数は増加、不登校児童数は4年連続増加

小学校数は、前年度から公立が1校減って265校（国立1校、公立262校、私立2校）となった。児童数は116,889人で前年度比1,581人（1.3%）減となり、児童数が最大となった昭和55年度（205,171人）の57.0%の規模である。 [付表1-1、図1、第2表、時系列表]

学級数は、4,258学級で前年度より39学級減少し、教員数は6,354人と6人増加した。

学年別児童数をみると、6年生が20,177人と最も多く、次いで5年生が19,739人、4年生が19,669人と続いている。一方、最も少ないのは1年生で18,765人である。 [第2表]

平成21年度中に小学校を30日以上欠席した長期欠席児童数は1,138人で、前年度に比べ8人増加した。約104人に1人（児童総数の0.96%）が長期欠席していることになる。このうち不登校児童数は464人（同0.39%）で、前年度に比べ73人増加した。 [付表3-1、図3]

参考として国の速報値をみると、全国の長期欠席児童数は52,437人（児童総数の0.75%）で、前年度より3,237人減少し、うち不登校児童数は22,327人（同0.32%）で325人減少した。 [付表3-2]

児童総数に対する比率を全国値と比較すると、長期欠席児童数の比率は本市が0.21ポイント高くなっており、不登校児童数の比率も本市が0.7ポイント高くなっている。 [付表3-1、付表3-2、図3]

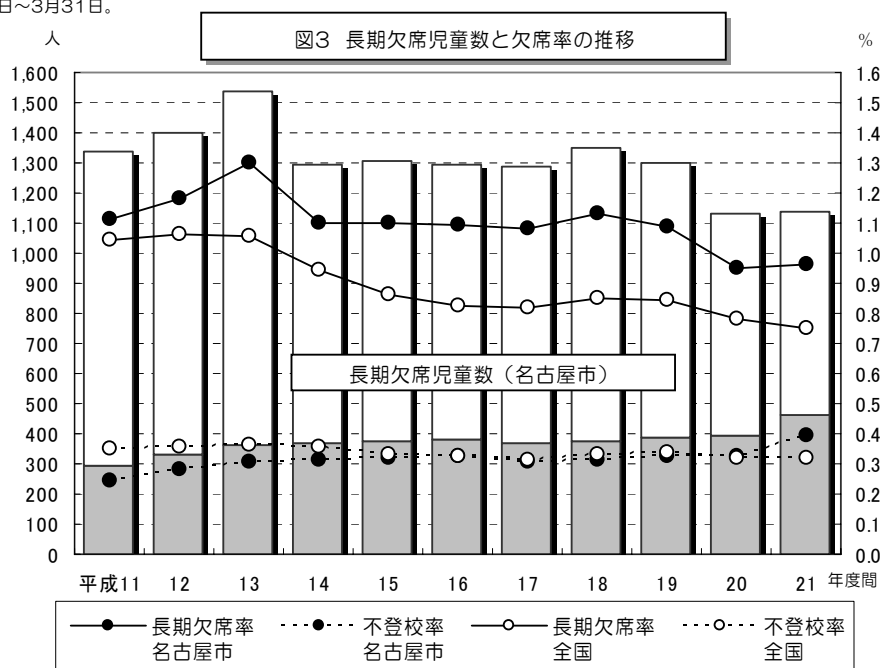
表3-1 理由別長期欠席児童数の推移（名古屋市）

年度間	児童総数 （人）	理由別長期欠席児童数					総数に対する割合（%）	
		計	病気	経済的理由	不登校	その他	計	不登校
平成11年	120,580	1,339	732	2	295	310	1.11	0.24
12年	118,839	1,402	758	5	333	306	1.18	0.28
13年	118,293	1,539	833	3	361	342	1.30	0.31
14年	117,761	1,292	596	-	368	328	1.10	0.31
15年	118,228	1,304	603	2	378	321	1.10	0.32
16年	118,661	1,296	603	1	382	310	1.09	0.32
17年	119,324	1,288	572	1	368	347	1.08	0.31
18年	119,665	1,353	571	3	376	403	1.13	0.31
19年	119,188	1,298	514	1	385	398	1.09	0.32
20年	119,297	1,130	376	-	391	363	0.95	0.33
21年	118,470	1,138	382	-	464	292	0.96	0.39

付表3-2 理由別長期欠席児童数の推移（全国）

年度間	児童総数 （人）	理由別長期欠席児童数					総数に対する割合（%）	
		計	病気	経済的理由	不登校	その他	計	不登校
平成11年	7,500,317	78,428	43,444	143	26,047	8,794	1.05	0.35
12年	7,366,079	78,044	42,548	149	26,373	8,974	1.06	0.36
13年	7,296,920	77,215	41,230	174	26,511	9,300	1.06	0.36
14年	7,239,327	68,099	33,290	116	25,869	8,824	0.94	0.36
15年	7,226,910	62,146	29,086	78	24,077	8,905	0.86	0.33
16年	7,200,933	59,305	26,502	62	23,318	9,423	0.82	0.32
17年	7,197,458	59,053	26,263	79	22,709	10,002	0.82	0.32
18年	7,187,417	61,095	26,267	88	23,825	10,915	0.85	0.33
19年	7,132,874	60,236	25,248	47	23,927	11,014	0.84	0.34
20年	7,121,781	55,674	21,984	61	22,652	10,977	0.78	0.32
21年	6,993,433	52,437	19,357	73	22,327	10,680	0.75	0.32

注）年度間は4月1日～3月31日。



Ⅳ 中学校 — 生徒数は前年度より312人減少

長期欠席生徒数は2年連続減少、不登校生徒数は減少

中学校数は前年度と変わらず124校（国立2校、公立110校、私立12校）となった。生徒数は60,912人で前年度比312人（0.5%）減となり、第2次ピークである昭和61年度（102,792人）の59.3%の規模となっている。 [付表1-1、図1、第3表、時系列表]

学級数は1,876学級で前年度と変わらず、教員数は4,297人と15人減少した。

区別の生徒数をみると、生徒数が最も多いのは緑区の6,880人（前年度6,736人から144人増）で、最も少ないのは中区の848人（同833人から15人増）である。

学級数及び職員数は緑区、学校数及び教員数は千種区が最多である。 [第3表]

平成21年度中に中学校を30日以上欠席した長期欠席生徒数は2,105人で、前年度と比べ185人減少した。約29人に1人（生徒総数の3.44%）が長期欠席していることになる。このうち不登校生徒数は1,424人（同2.33%）で、前年度に比べ36人減少した。 [付表4-1]

参考として国の速報値をみると、全国の長期欠席生徒数は128,210人（生徒総数の3.60%）で、前年度より7,594人減少し、うち不登校生徒数は99,923人（同2.81%）で4,062人減少している。 [付表4-2]

生徒総数に対する比率を全国値と比較すると、長期欠席生徒数の比率では本市が0.16ポイント低く、不登校生徒数の比率でも本市が0.48ポイント低くなっている。 [付表4-1、付表4-2、図4]

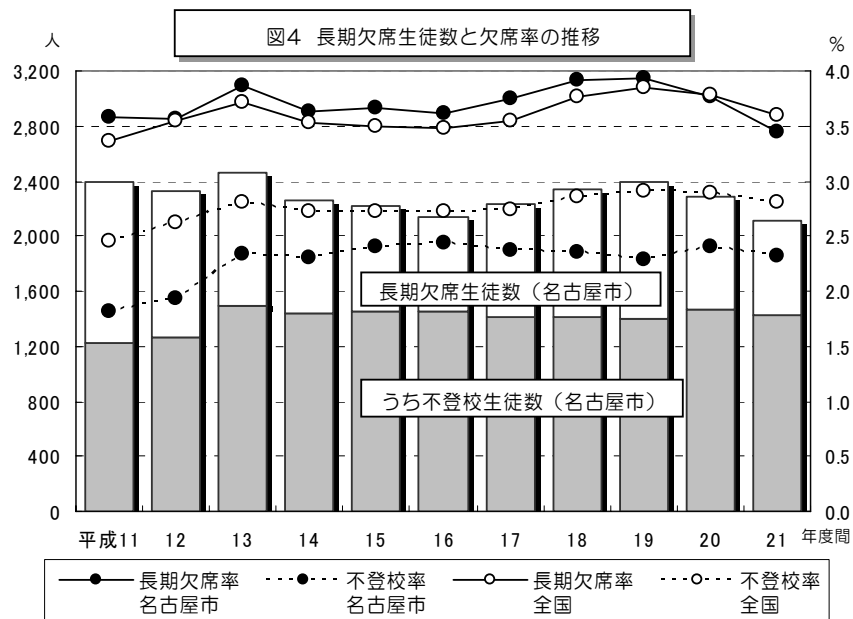
付表4-1 理由別長期欠席生徒数の推移（名古屋市）

年 度 間	生徒総数 (人)	理 由 別 長 期 欠 席 生 徒 数					総数に対する 割合(%)	
		計	病 気	経済的 理 由	不登校	その他	計	不登校
平成11年	66,976	2,396	676	41	1,219	460	3.58	1.82
12年	65,238	2,325	672	29	1,263	361	3.56	1.94
13年	63,725	2,464	640	23	1,486	315	3.87	2.33
14年	62,187	2,262	511	12	1,437	302	3.64	2.31
15年	60,471	2,219	447	14	1,451	307	3.67	2.40
16年	59,426	2,143	419	7	1,449	268	3.61	2.44
17年	59,631	2,236	498	10	1,414	314	3.75	2.37
18年	59,828	2,343	623	8	1,409	303	3.92	2.36
19年	60,923	2,391	593	19	1,393	386	3.92	2.29
20年	60,808	2,290	446	9	1,460	375	3.77	2.40
21年	61,224	2,105	395	4	1,424	282	3.44	2.33

付表4-2 理由別長期欠席生徒数の推移（全国）

年 度 間	生徒総数 (人)	理 由 別 長 期 欠 席 生 徒 数					総数に対する 割合(%)	
		計	病 気	経済的 理 由	不登校	その他	計	不登校
平成11年	4,243,762	142,750	27,359	494	104,180	10,717	3.36	2.45
12年	4,103,717	145,526	26,518	372	107,913	10,723	3.55	2.63
13年	3,991,911	148,547	25,248	342	112,211	10,746	3.72	2.81
14年	3,862,849	136,013	21,049	262	105,383	9,319	3.52	2.73
15年	3,748,319	131,181	19,737	220	102,149	9,075	3.50	2.73
16年	3,663,513	127,658	18,474	191	100,040	8,953	3.48	2.73
17年	3,626,415	128,596	19,216	210	99,578	9,592	3.55	2.75
18年	3,601,527	135,472	21,309	193	102,957	11,013	3.76	2.86
19年	3,614,552	138,882	21,320	194	105,197	12,171	3.84	2.91
20年	3,592,378	135,804	19,420	146	103,985	12,253	3.78	2.89
21年	3,558,169	128,210	17,274	137	99,923	10,876	3.60	2.81

注）年度間は4月1日～3月31日。



V 高等学校 — 生徒数は3年連続増加

高等学校数は前年度と変わらず 63 校（国立 1 校、公立 35 校、私立 27 校）となった。生徒数は 66,542 人で、前年度比 990 人（1.5%）増となったが、第 2 次ピークである平成元年度（103,668 人）の 64.2% の規模となっている。 [付表 1-1、図 1、第 4 表、時系列表]

教員数は 5,681 人で前年度より 89 人増加し、国公立は 2,993 人（前年度比 69 人増）、私立は 2,688 人（同 20 人増）であった。 [付表 1-3、第 4 表]

設置者別に生徒数をみると、国立 358 人（前年度比 1 人増）、公立 32,658 人（同 820 人増）、私立 33,526 人（同 169 人増）で、私立の生徒数が 7 年連続で国公立の生徒数を上回った。全日制の生徒数では、ここ最近 15 年間以上、

付表 5-1 設置者別生徒数の推移

年 度	総 数				う ち) 全 日 制			
	総 数	国 立	公 立	私 立	総 数	国 立	公 立	私 立
平成12年	72,047	355	35,590	36,102	70,364	355	33,907	36,102
13年	71,087	353	35,416	35,318	69,365	353	33,694	35,318
14年	69,200	356	34,658	34,186	67,384	356	32,842	34,186
15年	68,436	358	34,057	34,021	66,600	358	32,221	34,021
16年	67,838	353	33,544	33,941	65,993	353	31,699	33,941
17年	66,617	357	32,841	33,419	64,855	357	31,079	33,419
18年	65,475	359	32,087	33,029	63,706	359	30,318	33,029
19年	64,689	356	31,530	32,803	63,016	356	29,857	32,803
20年	65,238	358	31,640	33,240	63,578	358	29,980	33,240
21年	65,552	357	31,838	33,357	63,879	357	30,165	33,357
22年	66,542	358	32,658	33,526	64,735	358	30,851	33,526

私立の生徒数が国公立の生徒数を上回っている。 [付表 5-1、第 4 表]

次に、学科別に生徒数をみると、普通科が 48,404 人（前年度比 949 人増）で最も多く、全体の 72.7% となった。工業科は 8,017 人（同 122 人減）で同 12.0%、商業科は 6,966 人（同 178 人増）で同 10.5% となっている。 [第 5 表]

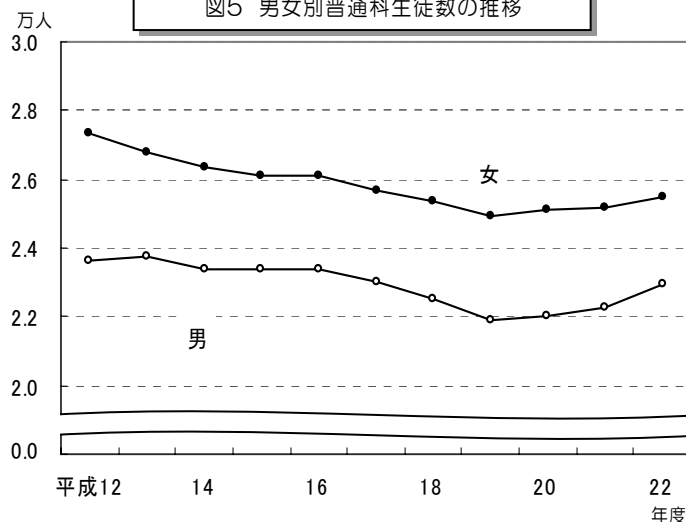
また普通科の生徒を男女比でみると、男子生徒が 22,918 人（前年度比 646 人増）、女子生徒が 25,486 人（同 303 人増）となっており、男女比は、47.3%対 52.7%で

付表 5-2 高等学校普通科在学者の男女別内訳

年 度	実 数		構 成 比 (%)	
	男	女	男	女
平成12年	23,642	27,330	46.4	53.6
13年	23,754	26,766	47.0	53.0
14年	23,386	26,375	47.0	53.0
15年	23,371	26,121	47.2	52.8
16年	23,361	26,126	47.2	52.8
17年	22,987	25,667	47.2	52.8
18年	22,485	25,340	47.0	53.0
19年	21,882	24,922	46.8	53.2
20年	22,005	25,084	46.7	53.3
21年	22,272	25,183	46.9	53.1
22年	22,918	25,486	47.3	52.7

女子生徒の比率が高く、この比率は平成 13 年度からほぼ同じである。 [付表 5-2、図 5]

図5 男女別普通科生徒数の推移



Ⅵ 特別支援学校

市内には9校の特別支援学校があり、年齢に応じ幼稚園から高等学校までの教育が行われている。在学者数は幼稚園が29人で前年度比1人（3.3％）減、小学部が514人で同2人（0.4％）減、中学部が312人で同29人（8.5％）減、高等部が785人で同91人（13.1％）増となり、全体でみると合計1,640人で前年度比59人（3.7％）増となった。

教員数は合計822人で前年度比1人（0.1％）増となっている。

〔付表1-1、付表6、時系列表〕

付表6 特別支援学校の学校数、学級数、在学者数、教員数

年度	学校数	学級数	在学者 数合計	教員数	各年5月1日							
					幼稚部		小学部		中学部		高等部	
					学級数	在学者	学級数	在学者	学級数	在学者	学級数	在学者
平成19年	9	344	1,501	773	9	34	138	490	88	334	109	643
20年	9	351	1,536	805	7	32	142	497	85	314	117	693
21年	9	363	1,581	821	7	30	148	516	91	341	117	694
22年	9	360	1,640	822	7	29	145	514	81	312	114	785

注）教員数は本務者。

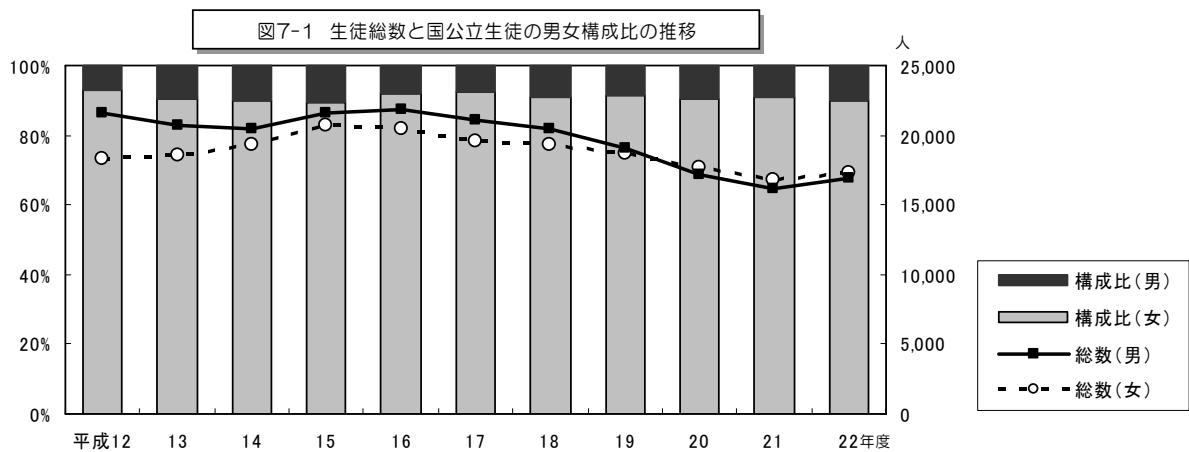
Ⅶ 専修学校 ― 生徒数は6年ぶりに増加

専修学校数は前年度から私立が1校減って117校（公立3校、私立114校）となった。生徒数は34,201人で前年度比1,287人（3.9％）増となり、6年ぶりに増加へ転じたが、生徒数が最大となった平成4年度（53,123人）の64.4％の規模となっている。また、私立の生徒数が全体の97.6％を占めている。

〔付表1-1、図1、第6表、時系列表〕

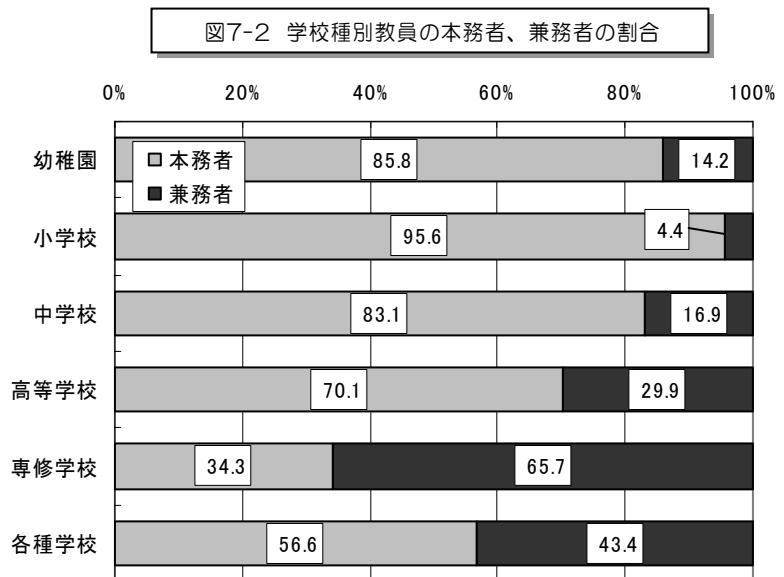
課程別に生徒数をみると、高等課程が4,255人（前年度比202人増）、専門課程が29,421人（同1,180人増）、一般課程が525人（同95人減）で、専門課程の生徒数が全体の86.0％を占めている。〔第6表〕

生徒の男女比は、男子生徒49.6％（16,949人）に対し、女子生徒が50.4％（17,252人）であるが、公立の生徒数を男女比でみると、男子生徒9.9％（82人）に対し、女子生徒90.1％（743人）となり、男子生徒の比率は1割に満たない。〔図7-1〕



次に、生徒数を区別にみると、中村区が11,508人(前年度10,996人から512人増)と最も多く、次いで中区7,473人(同7,421人から52人増)、熱田区3,565人(同3,299人から266人増)の順となっており、この3区で生徒数の65.9%を占めている。

教員数は5,665人(前年度比122人減)で、うち兼務者が3,721人となっており、他の種類の学校と比較して兼務者の割合が高くなっている。 [図7-2、第6表]



Ⅷ 各種学校 — 学校数は減少、生徒数は増加

各種学校は前年度から2校減って34校(私立のみ)となった。各種学校の学校数は、昭和43年度の236校が最高で、以後は横ばい、又は減少を続け、平成16年度からは最高時の2割に満たない水準となっている。生徒数は9,033人で、前年度比19人(0.2%)増となったが、第2次ピークである平成元年度(34,134人)の26.5%の規模となっている。 [図1、付表1-1、第7表、時系列表]

生徒数を区別にみると、中村区が2,572人(前年度2,487人から85人増)と最も多く、続いて千種区の1,887人(同1,965人から78人減)であり、この2区で生徒総数の49.4%を占めている。 [第7表]
教員数は645人で、前年度より25人減少した。 [付表1-3、第7表]